

第2回群馬県国際情勢アドバイザリーボードヒアリング 概要

日時：令和8年6月15日（月）

場所：群馬県庁第一特別会議室

相手方：元厚生労働大臣 武見 敬三 氏

1. 国際情勢および中東情勢の現状評価

- ・中東・北東アジアを含め、地政学的対立は長期化・深刻化する見通し。
- ・軍事衝突の敷居が低下し、不安定な国際環境が継続する。
- ・アメリカと中国のデカップリング（分離・分断）は現実的には困難であり、国家間の対立が深刻化しても、国際的なヒト・モノ・カネ・情報の流れは継続する。

2. 保健医療安全保障の観点でのリスク

- ・経済安全保障の観点から、必要物資の安定確保が重要であり、国による取組のほか、都道府県レベルでも取り組まないといけない課題。
- ・現時点では、医療現場に重大な影響は出ていない。ただし、将来的には、不確実であり、平時からの備蓄強化は不可欠。
- ・特にディスプレイ製品にはナフサ由来のものが多いため、備蓄を確保しておく必要がある。
- ・抗生物質の原材料も8割方中国に依存しているため、供給途絶リスクがある。
- ・レアアースの輸出を抑えるように、抗生物質の原材料の輸出を抑えられるリスクがあるため、採算を度外視してでも、一定量の原材料の生産は国内で行う形を取らなければいけない。
- ・医薬品の供給には国の責任が大きく、ジェネリック産業の再編等が必要であり、流通・薬価制度にも構造的な課題がある。

3. 医療・公衆衛生インフラ等の中長期的対応

- ・未来を考える際は、現状の延長線上にある「自然的未来」、生物としての人間の特性と結びついた「社会生物学的未来」、さらに「創造的価値を生み出す未来」の3つの視点が重要である。

- ・人口減少と生産年齢人口減少は避けられず、経済活力を維持するためには外国人労働者が不可欠である。併せて、デジタルによるサービス提供への転換、女性の社会参画を促進、元気な高齢者の活躍促進が求められる。
- ・世界で最先端の高齢社会である日本が、単独世帯の高齢者などに対応したサービスとして、デジタル技術を活用した居住環境を含む地域医療と社会保障サービスの在り方を、ぜひ群馬県で検討してほしい。